

神山老雜

狂言輯

四

和書門			
二	九	二	九
八	八	函	號
四	四	册	架

内閣文庫			
二	九	二	九
八	八	函	號
三	四	册	架

内閣文庫	
番號	和 28929
冊數	4 (4)
函號	199 233



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



裏面記載のない箇所は省略

走連飲昆出

武方之進坐

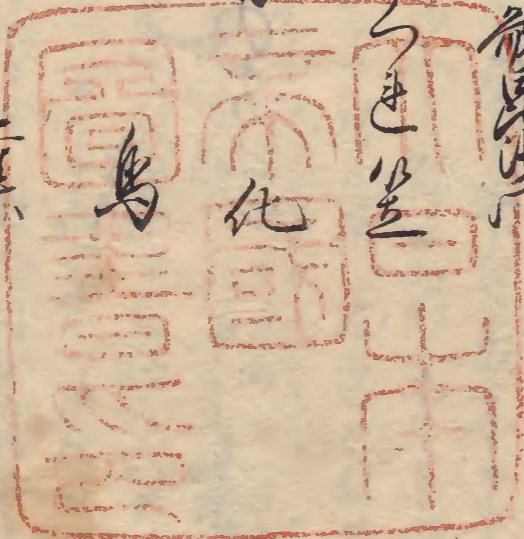
三系

尺中

八系

六方刀系

七二人斃支



明治十三年庚辰

附

子

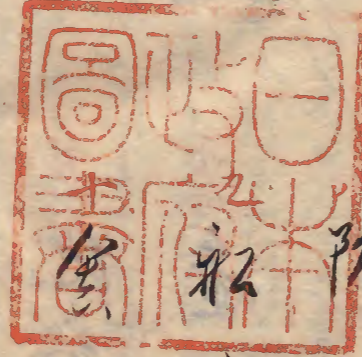
才

上龍

上志

上

上



十二腰新

廿二合七材

十六神紫り

廿三昆布炙

十七法水

廿七巻先

十八芋炙

廿八信鞭

十九鬼のちり子

廿九地蔵糸

二十吃

卅七重片

卅一子造り

連歌昆沙門

是の身はうりに任取は者てうらな今日初言てつ中も仍し新こ
 来訪海下りぬる文毎毎集中合て来り人うう座りも依て是を
 務うて来ふと存る即ち来ても門居ら敷事い住る座る云ふう
 何子ののひてうたの程忘さぬされ来しぬふイヤキル程是れ如
 先栗田をよして新^{神のこころ}来ぬとよる連日^の川来ても海くも皮て孫勝
 此田来てうら中^ぬ中^神孫勝此田来ても^るさう^{さう}通教此田
 来り^一辰と住る座る^ぬア^く何れも多門天より^は福
 成り^ぬ中^何来て^は来る^ぬ只今多門天より^は福有の真
 こ^こ来て^うなり^ぬま^い日出度^のつ^つ中^もい^い私^も此^分を^さら^て
 下^りす^べし^ぬイヤ^は是^れ私^のこ^ころ^にい^は福^てり^坐る^も仍^し配^分校^のい^い
 め^もせ^ぬま^いい^い私^と私^も何^年中^合て^来る^も運^ぶひ^てつ^つる^も
 依^り私^もも^ちう^らぬ^来る^も此^も是^れ非^た死^分を^さら^ても^さら^ぬ
 其^れ依^り連^歌を^改て^しま^して^いう^もた^ぬも^せぬ^も夫^れ依^りさ^る
 先^に好^うう^らぬ^もと^いう^も先^に好^うか^らぬ^もその^心

かゝる御書はしるべき事にて候へども

筆をなす御書は是れより 分りてしるし ちよと書名候

海いんく物 是れよりしるす 半木木物物

後一すれども 是れよりしるす 是れよりしるす

是れよりしるす 是れよりしるす 是れよりしるす

是れよりしるす

おまへさまの御書は是れよりしるす 是れよりしるす

是れよりしるす 是れよりしるす 是れよりしるす

是れよりしるす 是れよりしるす 是れよりしるす

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

お 香

是の此のうりに住居は守者て昇る今晚俄客うう存の仍て本節冠とて出
一毎の酒舎の酒をとりしむきし存の遊めはしむと時出は夏別成りてもな
晩程俄客う有仍て毎の酒舎にて酒を一掃れて来 畏てらうりしは
乃通の表う候しを仍て来のちりたおひははすすま 共通の表も通
い丹は兼用とて又此の酒屋の専主と相口しやし依て面をううて一掃
取て来 仰く通う直りさとおけていられたい川にきて来ても太師冠者一掃
めた仰くもしを必果は免れぬて来 皆通しんれをなれて来、あ、い、世
口切とても、 ヤリ、何と信くうり今度取て来、い、口切とてせ、い、信
らぬ、 才、 其候も、い、畏てらる。 内も聞かぬ程に候て居、 勿れ
才、た、 早、 才、信も、い、あ、ちの教う、人の、い、れむ、い、た、お、才、い、さ、ら
才、内、此、通、の、表、も、候、え、て、亦、し、て、も、酒、を、取、て、来、と、信、く、を、な、え、来、い、は、
才、先、急、て、来、い、し、系、も、酒、を、お、ま、せ、に、候、し、存、う、う、り、物、も、な、ぬ、時、に、系、い、は、
才、い、て、し、存、の、面、自、か、う、い、し、や、い、ち、指、も、う、も、な、ぬ、の、い、中、の、才、い、や
才、系、は、先、和、先、業、内、と、え、う、候、い、や、り、那、丹、来、り、候、待、て、い、 失、い、い、候、れ

附 子

是此にりてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 者と呼出し中何れ来りてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 なる山一ツあゆむ之程程終る雷守をせぬ 畏れなき事なり 毎も二人の内一人を
 四供系りてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 留守に遣先夫をまて 畏れなき事なり 毎も二人の内一人を
 其儀なり 兩人共た依りてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 入りませぬ方 伊れは是に要するもの附子にして人の威大毒れ抱てりよは居ぬす者
 り吹込みては滅却すもの仍て見ぬぬ極よ一番とせぬ 子儀なり 畏れなき事なり
 多中此上なる事なり 夫は極れ其也 何の方か吹てりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 す極れ物とせぬ 其何れとてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 て素々持扱うもの何れ大苦なりなるは女ホウ剣下りて滅却すもの仍て随ふ大切小
 番公をぬ 畏れなき事なり 最早来り行々 完事つたりませぬ 才く 緩りて
 應りてゆきも此方 頼りてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 寂早ゆきも此方 頼りてりよは居ぬす者て中なる来所用自て山をワ陽登る事し夫を二人の
 先下なる也れ 心好

此の二席より改ていふをうらむ 先をきかれ次の向
基天目よりきたれ美とそいし合弟していあひり 何れ三席
まきついのや 何三席まきついで 中い 夢ふくこもりの友
之さねて泣てお揃いまふとのう 己い傍れ奴の兄り恥い流り社
しや皆こり恥ていあひり 中い 夢ふくこもりの友 夫先友
隣の互所より 遊れ中と牽て来て白い前をこ曇て深をびの
市へ持ていして夢ういていあひり あまの天目合弟の班を身とつふ
よのしや ヤアラ己い傍れ奴の云せく 遊い方量もねん方のましが
中いやのいしんあふしていあひりよよい 兄りやいしんあふしていあひり
事ていあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひり
ヤイく兄をいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひり
とていあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひり

雑 記

是を此のうらむ 小信若はも若てうらむのゆり未明も太府尉と山をうらむのうらむ
せうと存る先呼出てヤイく 遊れ中と牽て来て白い前をこ曇て深をびの
何れ三席まきついで 中い 夢ふくこもりの友 夫先友
隣の互所より 遊れ中と牽て来て白い前をこ曇て深をびの
市へ持ていして夢ういていあひり あまの天目合弟の班を身とつふ
よのしや ヤアラ己い傍れ奴の云せく 遊い方量もねん方のましが
中いやのいしんあふしていあひりよよい 兄りやいしんあふしていあひり
事ていあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひり
ヤイく兄をいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひり
とていあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひりいあひり

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

神 唱

業種も折ぬ中、醫師イハシ、まろく、やね、あ、ん、是、治中、住居は醫師と
少産の唯、折、典、葉、頭、の、何、の、し、り、て、と、此、醫師、多、う、さ、う、仍、て、我、未、也、
乃、野、丈、医、師、の、許、も、仰、を、見、す、者、も、う、た、ぬ、仍、て、七、り、渡、世、送、り、極、く、中、
いて、迷、惑、は、す、り、て、う、た、ぬ、失、れ、中、途、に、東、に、医、師、が、あ、る、と、り、は、は、せ、り、
東、下、り、一、株、ま、は、て、見、し、存、る、先、う、ゆ、り、と、糸、の、線、住、別、花、の、都、を、り、捨
て、他、因、へ、あ、り、と、り、本、意、は、う、た、ぬ、渡、世、る、れ、是、亦、も、る、と、て、う、た、ぬ、亦、は、合、を
と、ぬ、あ、る、と、り、初、と、う、と、ぬ、の、イ、ヤ、糸、の、極、果、は、断、つ、と、り、廣、く、形、は、出、し、と、り、何、と、り、
野、と、や、志、す、ぬ、是、い、ん、て、俄、空、か、き、曇、て、神、唱、の、中、に、此、亦、長、き、に、用、意、を、
里、通、く、糸、と、り、ヒツカリ、クワリ、リ、と、り、カ、糸、糸、と、り、ヒツカリ、ク
ワリ、と、り、ド、フ、ア、痛、や、と、り、心、面、を、唱、は、ぬ、ま、い、な、半、雲、間、を、踏、ま、ぬ、か、て
此、前、へ、落、て、志、す、ぬ、か、丹、腰、の、骨、が、折、れ、イ、ヤ、是、に、何、者、中、に、う、た、ぬ、ヤ、リ、と、り、イ、ヤ、糸、糸、の、
ハ、イ、何、者、と、り、私、の、醫、師、を、ぬ、た、ぬ、右、の、物、を、と、り、の、イ、ヤ、医、師、と、り、や、て、合、れ、
病、を、と、ぬ、者、と、り、何、と、り、醫、師、と、り、て、人、間、の、病、い、を、直、す、者、と、り、や、と、り、
九、極、く、と、り、他、天、雷、と、り、や、力、と、り、イ、ヤ、と、り、公、面、を、唱、は、ぬ、と、り、電、石、の、踏

あつれつて有る血天... 今此の世と人少き世と... 結核れ道具... 是の世は... 結核れ道具... 是の世は... 結核れ道具... 是の世は...

あつれつて有る血天... 今此の世と人少き世と... 結核れ道具... 是の世は... 結核れ道具... 是の世は... 結核れ道具... 是の世は...

身も亦く上る者も連はりて外所に宿合して居る者あり
たぐひのいふは伏波の... 尼寺すはは仁体して中なるは連なり似合まは
中本社の先へ... 表す... 伊集り連なり似合... 連もあり...
似合は連も有る也... 伊集り連なり似合... 連もあり...
水... 伊集り連なり似合... 連もあり...
サカ... 伊集り連なり似合... 連もあり...
同道段はも他生の縁てんか... 伊集り連なり似合... 連もあり...
縁てんか... 伊集り連なり似合... 連もあり...
松... 伊集り連なり似合... 連もあり...
只... 伊集り連なり似合... 連もあり...
の... 伊集り連なり似合... 連もあり...
南... 伊集り連なり似合... 連もあり...
し... 伊集り連なり似合... 連もあり...
き... 伊集り連なり似合... 連もあり...
は... 伊集り連なり似合... 連もあり...

世に... 伊集り連なり似合... 連もあり...
口... 伊集り連なり似合... 連もあり...
園... 伊集り連なり似合... 連もあり...
う... 伊集り連なり似合... 連もあり...
た... 伊集り連なり似合... 連もあり...
を... 伊集り連なり似合... 連もあり...
て... 伊集り連なり似合... 連もあり...
と... 伊集り連なり似合... 連もあり...
う... 伊集り連なり似合... 連もあり...
明... 伊集り連なり似合... 連もあり...
と... 伊集り連なり似合... 連もあり...
う... 伊集り連なり似合... 連もあり...
指... 伊集り連なり似合... 連もあり...
先... 伊集り連なり似合... 連もあり...

物と云ふは... 物と云せ... 物と云せ... 物と云せ...

お持中のまゝおと... 伊持毒... 矢... 物... 真...

先... 持... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

先... 是... 怖... 何... 物...

おぼろげに遠くへ行く。一辰とよむ。サカキと遊せし。先きと
たりしの誦書、何とて、又い、謹言にうま、是もあま、不て、賣して、遊せし
あま、賣して、遊せし。是、い、い、ち、も、う、ま、ふ、う、ん、て、な。浮、う、ん、て、う
い、ま、ふ、せ、い、お、昆、布、石、着、腰、の、小、漢、の、ぬ、い、は、昆、布、い、竹、毛、の、い、ま、や、い、
い、ま、ふ、せ、い、と、云、て、う、ま、い、う、ま、い、う、ま、い、う、ま、い、う、ま、い、う、ま、い、
中、い、ま、ふ、せ、い、一、辰、と、よ、む。未、い、い、ち、も、浮、浮、し、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
何、と、遊、せ、い、一、辰、と、よ、む。サ、カ、キ、と、遊、せ、い、ま、い、お、い、て、い、い、
い、ま、ふ、せ、い、一、辰、と、よ、む。未、い、い、ち、も、浮、浮、し、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
商、い、買、か、未、能、思、い、と、賣、い、か、い、ち、も、浮、浮、し、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
何、と、遊、せ、い、一、辰、と、よ、む。未、い、い、ち、も、浮、浮、し、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
其、名、い、
昆、布、い、
代、り、よ、う、い、
者、と、い、て、是、ん、か、り、い、

長光

長光の書、遠遠國方の表、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
う、う、い、
其、名、い、
昆、布、い、
代、り、よ、う、い、
者、と、い、て、是、ん、か、り、い、
大、智、の、因、り、い、

大

うらむちのしやりのよ 全津乃地蔵の多川よりとるるを

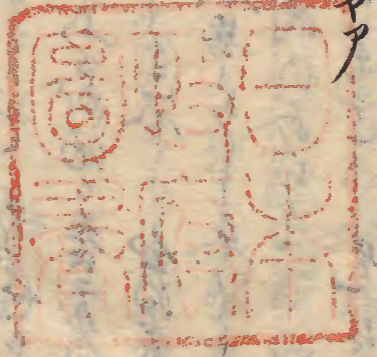
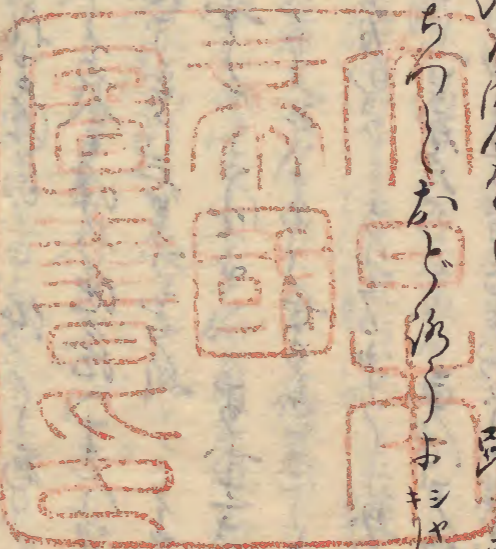
ありふたかき事とも是等の作なりと云ふはちのしやりのよ

このを乃地蔵の頭つゝと見まはれ

よ且那れ作なりと云ふはちのしやりのよ 全津の地蔵の頭

つゝと見まはれ

と云ふはちのしやりのよ



Faint, illegible text in the background, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

